

# 臨床医学系

## 内科学講座

### 膠原病・リウマチ

#### 著書

- 1 長澤浩平：免疫異常からみる膠原病。医療情報科学研究所編集。year note 2004 別冊 selected articles 115-124, Medic Media. 東京 2003.
- 2 長澤浩平：全身性エリテマトーデス，抗リン脂質抗体症候群。ダイナミックメディスン 19-78-83, 西村書店。新潟 2003.

#### 学術論文

- 1 °Fukuno Y, Hayashi S, Kohsa K, Fujisawa N, Tominaga M, Miller EJ and Nagasawa K.: Chemokine receptor inhibitor, antileukinate, suppressed ovalbumin-induced eosinophilic inflammation in the airway. Cytokine. 22: 116-125, 2003.
- 2 °Iwanaga K, Sueoka N, Sato A, Sakuragi T, Sakao Y, Tominaga M, Suzuki T, Yoshida Y, K-Tsuzuku J, Yamamoto T, Hayashi S, Nagasawa K and Sueoka E.: Alteration of expression or phosphorylation status of tob, a novel tumor suppressor gene product, is an early event in lung cancer. Cancer Lett. 202: 71-79, 2003.
- 3 岩崎由紀子, 多田芳史, 鐘江 大, 春田善男, 小荒田秀一, 牛山 理, 長澤浩平, 大田明英：寛解後比較的早期に悪性腫瘍が出現した皮膚筋炎の2例。九州リウマチ 22：74-80, 2003.
- 4 °Kimoto M, Nagasawa K and Miyake K.: Role of TLR4/MD-2 and RP105/MD-1 in innate recognition of lipopolysaccharide. Scand J Infect Dis. 35: 568-572, 2003.
- 5 小荒田秀一, 長澤浩平：自己免疫疾患における Toll-like レセプターファミリーの役割—RP105, TLR4 の臨床的意義—医学のあゆみ 205：103-107, 2003.
- 6 °Matsuura E, Ohta A, Kanegae F, Haruta Y, Ushiyama O, Koarada S, Togashi R, Tada Y, Suzuki N, and Nagasawa K.: Frequency and analysis of factors closely associated with the development of depressive symptoms in patients with scleroderma. J Rheumatol. 30: 1782-1787, 2003.
- 7 °松浦江美, 大田明英, 鐘江 大, 牛山 理, 富樫理子, 多田芳史, 鈴木憲明, 長澤浩平：強皮症患者のセルフケアに影響を及ぼす要因について。看護研究 36(2)：63-74, 2003.
- 8 丸本真代, 春田善男, 多田芳史, 小荒田秀一, 牛山 理, 長澤浩平, 大田明英：頸部痛，発熱で発症した高安動脈炎の一例。九州リウマチ 22：103-109, 2003.
- 9 Nagasawa K.: Central nervous system involvement in adult onset Still's disease. Intern Med. 42: 930-931, 2003.
- 10 長澤浩平：関節リウマチ：マトリックスメタロプロティナーゼ3 (MMP3), 抗ガラクトース欠損 IgG 抗体。総合臨床 52：171-175, 2003.
- 11 長澤浩平：膠原病難治病態の治療の進歩。炎症と免疫 11：339-345, 2003.
- 12 Tada Y, Koarada S, Morito F, Ushiyama O, Haruta Y, Kanegae F, Ohta A, Mak TW and

Nagasawa K.: Acceleration of the onset of collagen-induced arthritis by a deficiency of platelet endothelial cell adhesion molecule 1. *Arthritis Rheum.* 48: 3280-3290, 2003.

- 13 Ushiyama O, Ushiyama K, Yamada T, Koarada S, Tada Y, Suzuki N, Ohta A and Nagasawa K.: Retinal findings in systemic sclerosis: a comparison with nailfold capillaroscopic patterns. *Ann Rheum Dis.* 62: 204-207, 2003.
- 14 牛山 理, 長澤浩平: 成人発症スチル病の皮膚病変. *リウマチ科* 30: 231-236, 2003.

#### 学会発表

- 1 春田善男, 小荒田秀一, 多田芳史, 牛山 理, 長澤浩平: TLR4 発現は感染症及び自己免疫疾患で増強する. 第77回日本感染症学会総会学術講演会. 2003, 4, 17-18. *感染症学雑誌* 77: 773-774.
- 2 春田善男, 小荒田秀一, 多田芳史, 牛山 理, 大田明英, 長澤浩平: リウマチ性疾患及び感染症における TLR4 発現の検討. 第47回日本リウマチ学会. 2003, 4, 24-26. *リウマチ* 42: 320 (ワークショップ).
- 3 小荒田秀一, 春田善男, 多田芳史, 大田明英, 長澤浩平: Behcet 病における休止・刺激培養後の Th1/Th2 バランスの検討. 第47回日本リウマチ学会. 2003, 4, 24-26. *リウマチ* 42: 414 (ワークショップ).
- 4 小荒田秀一, 春田善男, 牛山 理, 多田芳史, 大田明英, 長澤浩平: シェーグレン症候群におけるサイトカイン産生エフェクター細胞の Th1/Th2 バランス. 第12回日本シェーグレン症候群研究会. 2003, 10, 11-12. *日本シェーグレン症候群研究会抄録集* 12: 86-87.
- 5 小荒田秀一, 菊池裕治, 春田善男, 牛山 理, 多田芳史, 堀内孝彦, 大田明英, 長澤浩平: 膠原病における RP105 陰性 B 細胞の役割. 補体シンポジウム. 2003, 3, 8. 補体シンポジウム講演集 40: 18-19.
- 6 小荒田秀一, Wu Yuehong, Ridgway WM, 多田芳史, 長澤浩平: Idd3/10/9NOD コンジェニック・マウスは抗核抗体・抗 DNA 抗体を産生する. 第33回日本免疫学会総会. 2003, 12, 8-10. *日本免疫学会総会・学術集会記録集* 33: 284.
- 7 長澤浩平: SLE の RP105 陰性 B 細胞. 第31回日本臨床免疫学会総会. 2003, 10, 9-10. *日本臨床免疫学会会誌* 26: 166-167 (シンポジウム).
- 8 シェリフ多田野亮子, 大田明英, 春田善男, 小荒田秀一, 牛山 理, 多田芳史, 長澤浩平: 強皮症患者線維芽細胞のコラーゲン代謝に及ぼす Hepatocyte growth factor (HGF) の影響. 第31回日本臨床免疫学会総会. 2003, 10, 9-10. *日本臨床免疫学会会誌* 26: 246.
- 9 多田芳史, 小荒田秀一, 牛山 理, 春田善男, 鐘江 大, 大田明英, 長澤浩平: PECAM-1 (CD31) を欠損したマウスではコラーゲン関節炎の発症が促進する. 第47回日本リウマチ学会. 2003, 4, 24-26. *リウマチ* 42: 320 (ワークショップ).
- 10 牛山 理, 春田善男, 鐘江 大, 小荒田秀一, 多田芳史, 大田明英, 長澤浩平: 全身性エリテマトーデスにおける補体価の臨床パラメータとしての再検討. 第47回日本リウマチ学会. 2003, 4, 24-26. *リウマチ* 42: 345 (ワークショップ).

## 研究助成等

職名	氏名	補助金(研究助成)等の名称	種目	研究課題等	交付金額 (千円)
教授	長澤 浩平	平成15年度厚生労働科学研究費補助金	特定疾患対策 研究事業 骨・関節系研究 班特発性大 腿骨頭壊死症 調査研究分科 会(分担)	SLE 大腿骨頭壊死症の予防に関する 研究	1,500
講師	多田 芳史	平成15年度文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	ICOS の自己免疫疾患における作用の 検討および治療への応用に関する研究	1,800
講師	多田 芳史	平成15年度厚生労働科学研究費補助金	特定疾患対策 研究事業 混合性結合組 織病に関する 研究班(分担)	混合性結合組織の病態, 治療と抗 U1RNP に関する研究	395
助手	小荒田秀一	平成15年度文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	自己抗体産生 RP105 陰性 B 細胞を標 的とした免疫学的治療に向けた研究	1,800

## 神経

### 著書

- 1 黒田康夫：ギラン・バレー症候群。山口 徹，北原光夫 総編：2003今日の治療指針 605-606。医学書院。東京 2003。
- 2 黒田康夫：人のプリオン病 2 疫学。品川森一，立石 潤，山内一也監修：人と動物のプリオン病 41-50。近代出版。東京 2003。
- 3 黒田康夫：Gerstmann-Straussler-Scheinker 症候群。精神医学症候群 III 324-327。日本臨床社。東京 2003。
- 4 黒田康夫：Q & A とイラストで学ぶ神経内科。新興医学出版。東京 2003。

### 学術論文

- 1 池内雅樹，古賀道明，松石英城，黒田康夫：Haemophilus influenzae 感染の先行が示唆された急性散在性脳脊髄炎。神経内科 58：576-580，2003。
- 2 江里口誠，黒原和博，黒田康夫：プリオン病—最近の知見 感染対策。老年精神医学雑誌 714：1502-1507，2003。
- 3 尾上祐行，雪竹基弘，黒原和博，高島 洋，黒田康夫。Focal laryngeal dystonia による呼吸困難発作をくりかえした Parkinson 病の一例。臨床神経学，43：192-194，2003。
- 4 黒田康夫。ギランバレー症候群について。NHKきょうの健康 183：138，2003。
- 5 黒原和博，黒田康夫：急性小脳炎。耳鼻咽喉科・頭頸部外科 (JOHNS) 19：915-918，2003。
- 6 永石彰子，黒田康夫。前頭葉。Clinical Neuroscience, 21: 296-298, 2003。